

## 映画の授業 特別編／喜劇の黄金週間 4月17日（月）プログラム

16:30～【What's 夢の森にて？】ビデオ上映＝54分

制作：喜劇映画研究会、監督：新野敏也、出演：谷川賢作

サイレント映画の生演奏付き上映会として14年目の活動実績から、今や日本国内の主流となった！？「夢の森にて」。イタリアのポルデノーネ無声映画祭、東京国立近代美術館フィルムセンターなどの演奏にも参加した作曲家・ピアニストの谷川賢作が見どころをアピール。未公開ライブと歴代イベントをお楽しみ下さい。

18:00～【最初期ヨーロッパの喜劇1】※全16mm／24コマ映写＝計59分

リトル・ティッチとデカ靴(1904)Little Tich and his big boots 2分 イギリス MG フィルム博物館より

監督・主演：ハリー・レルフ

リトル・ティッチ(1867～1928)は本名ハロルド・レルフの芸名。19世紀末の演芸ホールで人気を博したコメディアンで、ロートレックの描いたポスターにも登場するヨーロッパの著名人であった。本作は彼の発案から手回しカメラと蓄音機の同調によるトーキー実験が行われた貴重な作品。尚、今回の音源はオリジナルの蓄音機録音をコピーし、フィルムのサウンド・トラックに焼き付けたもので上映している。本作はモンティ・パイソンの代表的ギャグ【馬鹿歩き】でもオマージュとして使われている。

ソレって自動車？運転者？(1906)The ? motorist 2分 イギリス ロンドン映画博物館より

空中戦 (1908)The airship destroyer 8分 イギリス ロンドン映画博物館より

以上2作品ともに、製作：ロバート・ウェーラム・ポール、監督：ウォルター・R・ブース

イギリス映画界黎明期の作家集団ブライトン派の作品。「ソレって自動車？運転手？」はメリエスを中心にフランス映画界から始まったトリック映画、ナンセンス寸劇をピクトリア朝コメディとして改訂された作品！？

「空中戦」はコメディではないが、歴史的に貴重なフィルムとしてセレクトした。製作当時は「宇宙戦争」くらいにブツ飛んだフィクションと思われていたであろう本作は、装甲車や戦闘機バトル(第一次世界大戦～)、市街地の無差別爆撃(第二次大戦～)の発想がテーマであり、ナチ第三帝国のV1号を彷彿させる無人攻撃機まで登場している。戦史研究家も腰を抜かす映画史の偶発的ギャグかもしれない…。

ライオンと征服将軍(1922)Seven years' bad luck 47分 アメリカ アメリカ政府資料館より

監督・脚本・主演：マックス・ランデール

主演のマックス・ランデール(1882?～1925)は映画史で最初の国際的スターとなった人物。20世紀初頭、創生期の映画においては【主人公】という特定のキャラクターが存在していなかった。映画発明国を自認するフランスでも多くの道化師による集団劇がシネマとして量産されていたのだが、その中で飛び抜けて注目された男がマックスであり、フランスを震源地とする世界中の愛人者となって【主人公】という固有のキャラクターを確立した。マックス作品は日本でも大正初期に多く輸入されていたが、第一次大戦によるフランスの映画産業停滞や従軍による休業、チャップリン等によるアメリカ喜劇の台頭によって人気凋落となった。本作は再起を賭けてアメリカで製作された長編であり、マックスを師と仰ぐチャップリンによってユナイテッド・アーティスツ社の配給によって公開された作品。映画の手法としては既に当時のレベルでも前時代的ながら、パントマイムの神技は不滅なり！

19:30～【最初期ヨーロッパの喜劇2】※全16mm／24コマ映写＝計 66 分

伊語翻訳：眞道安曇、字幕：小林剣道

ポリドールとガチョウ(1912) Polidor and the goose 5分 イタリア アメリカ政府資料館より(英語版)。

ポリドール初の決闘(1913) Polidor's First duel 5分 イタリア アメリカ政府資料館より(英語版)。

ポリドールニ番勝負(1917) Polidor tra due litiganti 8分 イタリア フリウリ映画資料館より。

ポリドール vs. 日本人(1917) Polidor e il giapponese 8分 イタリア ローマ映画資料館より。

女に変身ポリドール(1918) Polidor cambia sesso 14分 イタリア フリウリ映画資料館より。

以上5作品ともに、監督・主演：フェルディナン・ギョーム。

ポリドール(1887～1977、仏語名：フェルディナン・ギョーム、伊語名：フェルディナンド・ギラウメ)は、1096年の第一次十字軍遠征に参加した貴族の直系で、フランス革命によって亡命したギョーム男爵がイタリア・スイス国境で始めたサーカス団の正統な継承者となる。日本では大正初期に【トン君】の愛称で親しまれ、第一次大戦以降もイタリア映画界で活躍していた稀有な存在のコメディアン。フェデリコ・フェリーニ監督の「カビリアの夜」では淪落した主人公を諭す僧侶、「甘い生活」では酒場のステージに立つ老道化師を演じている。

飛行士ロビネット(1911) Robinet aviatore 4分 イタリア フリウリ映画資料館より

競輪選手ロビネット(1913) Robinet ciclista 3分 イタリア フリウリ映画資料館より

ボクサー・ロビネ(1913) Robinet boxeur 3分 イタリア・フランス フリウリ映画資料館より

以上3作品ともに、監督・主演：マルチエロ・ファブレ

ロビネット(生年不明～1929、伊語名：マルチエロ・ファブレ)は、19世紀末フランスの人気道化師で黎明期の映画界よりロビネ(マルセル・ファーブル)としてデビューするが、同時代のコメディアン、マックス・ランデール、アンドレ・デード、ランス・リガダン等の人気に押されてイタリア映画界へ移籍、そこでドタバタ専科の国民的スーパースターとなった。日本でも【薄馬鹿大将】として親しまれていた。映画史から鳥瞰すると、本作は第一次大戦前のヨーロッパ喜劇を知るうえでの典型的作風となる。ロビネットは第一次大戦を境に人気が翳り、再起を求めて渡米するが、撮影中の事故で片足を失い、誰に看取られる事もなく貧困のうちに客死した。このような悲劇的末路は20世紀初頭のヨーロッパ喜劇人に多く、映画の歴史では第一次大戦～アメリカ資本の台頭を時代的なターニング・ポイントと捉える。

ひめごと(1913) L'avventura di Kri-Kri 4分 イタリア ベネチア映画資料館より

クリ・クリとガミガミ姑(1915) Kri-Kri martire della suocera 3分 イタリア ベネチア映画資料館より

以上2作品ともに監督・主演：オーヴァロ

オーヴァロ(1887～歿年不明)は本名レイモン・フランで【クリ・クリ】が芸名となるフランスの道化師。1912年のイタリア巡業の際に映画界よりスカウトされて銀幕デビューを果たした。

フリコットの決闘(1913) Il duello di Frico 4分 イタリア フリウリ映画資料館より

フリコットと才女(1915) Fricot e la dottoressa 5分 イタリア フリウリ映画資料館より

以上2作品ともに、監督・主演：エルネスト・ヴァゼール

エルネスト・ヴァゼール(1876～1934)はアンブロージオ社の人気キャラクター【フリコット】の初代で、同じ役を実弟エルコレ・ヴァゼールや、チザレ・グラビーナ、アルマンド・ピロッティも演じていた。

(参考文献：サイレント・コメディ全史 新野敏也・著／喜劇映画研究会・刊)